

第4学年 音楽科学習指導案

1 題材名 いろいろな音のひびきを感じ取ろう (全7時間)

教材曲 「茶色の小びん」(器)

2 題材の目標

- 楽器の音の特徴や音色の違い、旋律の特徴を感じ取りながら聴いたり、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いたりして音を合わせて演奏したりすることができる。
- 楽器の音の特徴や音色の違いを生かして、音の組合わせを工夫して演奏をすることができる。

3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
① 主な旋律、副次的な旋律、和音、低音のパートのそれぞれの役割を感じ取り、楽しく演奏している。	① 主な旋律や副次的な旋律を聴き取り、その特徴を感じ取って、パートに合った音色を選んでいる。 ② 『ひみつ』を使って、音量のバランスや楽器の演奏の仕方について思いや意図をもって工夫している。	① 友達の楽器の音や互いの旋律を聴きながら、自分の音を合わせて合奏をしている。 ② 『ひみつ』を生かして、友達の楽器の音を聴きながら合奏している。

4 題材と指導の構想 (全6時間)

(1) 題材と児童

① 児童について

音楽においては、歌ったり楽器を演奏したりすることが好きな児童が多い。今までの振り返りでは、「一人で歌うのは苦手だけれど、班のみんなと歌うと楽しくて好き」等と書いている児童が多くいた。しかし、歌唱や楽器演奏が苦手で、技能があまり高くない児童もいる。

本題材は、7～8人のグループで活動をさせることで、友達と協力し励まし合いながら意欲的に活動を進めていくことを期待している。

4年生になってからは、歌唱教材「ゆかいに歩けば」で、アとイの旋律の特徴を生かした歌い方の工夫、強弱の工夫、歌詞に合った体の動きをそれぞれの班で工夫した。

器楽教材「陽気な船長」では、リコーダーで歯切れ良い感じにしたいときは、『トゥッ』、なめらかな感じにしたいときは、『トゥ』とタンギングすることを学習した。さらに、リコーダーで2つのパートを重ねて演奏した。2つのパートを重ねると楽しい、きれいに聞こえるという経験をしている。お互いの音を聴き合って演奏する喜びを味わうことができるような経験を積ませたいと考える。

② 題材について

本題材は、現行の小学校指導要領の以下の点を受けて設定した。

第3学年及び4学年	A表現
(2) 器楽	ア 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏すること。 イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。 ウ 音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。 エ 互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。
[共通事項]	ア (ア) 音色 リズム 拍の流れ 強弱 音の重なり

本題材では、材質による音の特徴をとらえて音の組合せを工夫したり、その響きの違いを生かしながら曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏したりする。曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもつ過程においては、教師による模範演奏を聴き取らせて、それぞれの楽器の適切な演奏の仕方に気付かせる。そして、友達の楽器の音や互いの旋律を聴きながら、音を合わせて演奏する技能を身に付けさせる授業を展開する。

いろいろな楽器の音が重なる豊かな響きを味わって演奏するとともに、お互いの音を聴き合って演奏する喜びを味わうことのできる授業を展開する。

(2) 指導の構想

① 題材を通してつけさせたい力

この題材のねらいは、①楽器の音の特徴や音色の違い、旋律の特徴を感じ取りながら聴いたり、互いの楽器の音や副次的な旋律、伴奏を聴いて音を合わせて演奏したりすること。②楽器の音の特徴や音色の違いを生かして、音の組合せを工夫して演奏すること。の2点である。

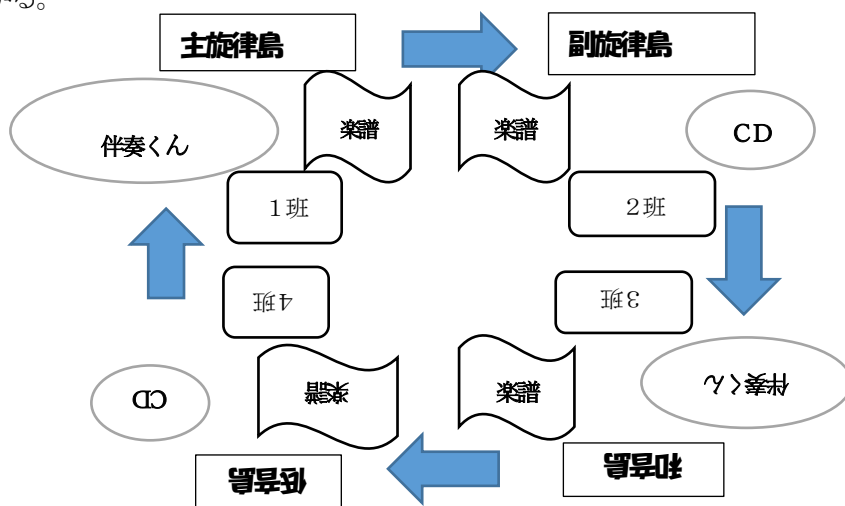
3年生での「いろいろな音のひびきをかんじとろう」では、その楽器に固有の音色に焦点を当てて学習を行った。器楽教材「パフ」では、3つのパートの合奏を行っている。

4年生の9月から11月は器楽教材「陽気な船長」と「聖者の行進」で、リコーダーでスタカートやスラー、休符等、旋律の特徴を捉えて表現を工夫する学習を行った。主な旋律と副次的な旋律を聴き取り、その特徴を感じ取って演奏することができた。演奏の仕方によって音が歯切れよくなるとか、音がなめらかになる等、音色が変わることを学習した。

本題材では、初めて4つのパートの合奏に挑戦する。それぞれのパートの音を合わせて演奏する技能を高めることを目標にする。それぞれの楽器の適切な演奏の仕方に気付かせて、曲想にふさわしい表現をするためには、どのように演奏するとよいかについて考えさせたい。

② 演奏技能向上を図る「音楽アイランド」の活用

音楽アイランドとは、市小研音楽部が考案した活動で、それぞれのパートを島に見立て、島を順番に回って練習することで、全員がそれぞれの楽器を演奏したり、主旋律や副旋律、和音、低音を試したりすることができる。これにより、楽器を演奏する技能の向上を図るとともに、グループ活動で聴き役となった時にアドバイスする素地をもたせることにつながる。



第1時は、ドレミ海を展開し、全員に4つのパートを練習させる。各パートの島を回りながら全パートの階名唱を覚えさせる。その後、鍵盤ハーモニカ海を展開し、全パートを鍵盤ハーモニカで演奏させる。短時間で演奏技能を高めることによって、その後の演奏の工夫の幅を広げさせたい。

第2時は、楽器海を展開する。教科書に記載されている楽器で各パートを演奏させる。いろいろな楽器で演奏することができるようにするために、島ごとに楽器を決めて演奏させる。主旋律は鍵盤ハーモニカかリコーダー、副旋律はリコーダーか鉄琴、和音は木琴、低音はバスマスターかオルガンで演奏させる。その後、パート海を展開し、「主旋律と副旋律」「和音と低音」の2グループに分けて練習させる。ここでは、主旋律を副旋律よりも目立たせることや、和音と低音を合わせることで音が響き合うこと等に気付かせる。

③ 楽器の組合せを考えさせるためのアンサンブル演奏の聴取

第3時に各グループでパートに合った音色を選ばせる際に、アンサンブル演奏を聴かせる。異なる楽器からなる3種類のアンサンブルを聴き取ることで、児童は楽器の組合せによって演奏に違いが生じることに気付く。そして自分たちも楽器を選びたいという思いをもたせ、グループで試しながら楽器を選択することができるようにする。本時では、校内の楽器の数や本時での工夫の仕方等を考慮して、次の「5 題材の指導計画」に記載の楽器を選択させる。

④ 演奏についての思いや意図をもたせるための、教師による模範演奏

第5時で、模範演奏を聴かせて、どのような音色が曲想にふさわしいのかについて考えさせる。演奏の仕方でも音色が変わることに気付かせて、演奏への思いや意図をもたせる。

5 題材の指導計画 (全7時間)

時	学習のねらい (○) と主な活動 (・)	評価			
		関	創	技	
1	○ 「茶色の小びん」を聴き、パートごとに、階名唱で歌ったり、鍵盤ハーモニカで演奏したりすることができる。 ・「茶色の小びんアイランド～ドレミ海～」の活動で、主旋律、副旋律、和音、低音の階名唱を練習する。 ・「茶色の小びんアイランド～鍵盤ハーモニカ～」の活動で、主旋律、副旋律、和音、低音を鍵盤ハーモニカで練習する。	○			・主な旋律、副次的な旋律、和音、低音のパートのそれぞれの役割を感じ取り、楽しく演奏している。(関①)
2	○ 「主旋律と副旋律」、「和音と低音」の2パートで音を合わせて合奏できる。 ・「茶色の小びんアイランド～楽器海～」の活動で主旋律、副旋律、和音、低音を教科書に記載されている楽器で練習する。 ・「茶色の小びんアイランド～パート海～」の活動で「主旋律と副旋律」、「和音と低音」を合わせる練習をする。	○		○	・主な旋律、副次的な旋律、和音、低音のパートのそれぞれの役割を感じ取り、楽しく演奏している。(関①) ・友達の楽器の音や互いの旋律を聴きながら、自分の音を合わせて合奏をしている。(技①)
3 4	○ 「茶色の小びん」で演奏する楽器を決め、グループで演奏することができる。 ・楽器の組み合わせによる演奏の違いを感じ取らせるためのアンサンブル演奏を聴き比べる。 ・グループで、パートに合った音色を選び、楽器を選択する。 ・楽器の分担を決め、グループごとに演奏する。 (校内の楽器の数や次時での工夫の仕方などを考慮して下記の通りとする) 旋律は、鍵盤ハーモニカかリコーダー 副旋律は、鉄琴かリコーダー 和音は、木琴 低音は、バスマスターかキーボード ・グループごとに、演奏をタブレットに録画する。		○	○	・主な旋律や副次的な旋律を聴き取り、その特徴を感じ取って、パートに合った音色を選んでいる。(創①) ・友達の楽器の音や互いの旋律を聴きながら、自分の音を合わせて合奏をしている。(技①)
5 本時	○ 模範演奏を聴き、どのような音色が曲想にふさわしいのかについて考え、演奏への思いや意図をもつ。 ・模範演奏を聴くことで、演奏の仕方でも音色が変わることに気付く。 ・『ひみつ』を使って、思いや意図をもってグループで練習をする。		○		・『ひみつ』を使って、音量のバランスや楽器の演奏の仕方について思いや意図をもって工夫している。(創②)
6	○ 曲想にふさわしい表現をグループで工夫する。 ・前時に選択した『ひみつ』を使って、グループで表現を深める。		○		・『ひみつ』を使って、音量のバランスや楽器の演奏の仕方について思いや意図をもって工夫している。(創②)

7	○ 茶色の小びんの発表会をする。 ・前時に工夫したことに気を付けて演奏する。 ・他のグループの良いところを見付ける。		○ ・『ひみつ』を生かして、友達楽器の音を聴きながら合奏している。(技②)
---	--	--	---------------------------------------

6 本時の計画(5時間目/全7時間)

(1) 本時のねらい

「茶色の小びん」を演奏することについて、『ひみつ無し』『ひみつあり』の模範演奏を聴き比べ、曲想にふさわしい演奏をするための『ひみつ』に気付き、その『ひみつ』を使って試す活動を通して、思いや意図をもった演奏をすることができる。

(2) 本時の構想

ア「見通し」について

- 『ひみつ無し』と『ひみつあり』の教師の模範演奏の聴き比べ

『ひみつ無し』と『ひみつあり』の模範演奏を聴き比べ、上手に演奏する『ひみつ』を見付けさせる。「上手に演奏する」とは、演奏の仕方がうまい、自分の思いや意図をもって演奏していることと捉える。そこで、模範演奏から、「こんな感じにしたい」という自分の思いや意図と演奏の仕方という観点の『ひみつ』に気付かせたい。

【こんな感じにしたい】	←→	【ひみつ】
鍵盤ハーモニカ・・・(歯切れのいい感じ)		タンギングをする
鉄琴・・・・・・・・(きれいな感じ)		マレットを変える
(はずんだ感じ)		はずませる
木琴・・・・・・・・(やわらかい感じ)		マレットを変える
(はずんだ感じ)		はずませる
バスマスター・・・・(全体に合う感じ)		音量を調節する

そして、『ひみつあり』で演奏するとどんな感じがするのかについて、子ども達に考えさせる。このことにより、模範演奏した教師は、一人ひとり曲想にふさわしい表現をするために、思いや意図をもって演奏していることに気付かせたい。模範演奏の聴き比べで見つけた『ひみつ』は、自分に合った『ひみつ』を選択して決める手掛かりとする。

イ「思考・判断・表現」について

- ① 前時の自分達の演奏は、『ひみつ』や自分の思いや意図をもって演奏しているか、という観点での比較
子ども達は、前時に各グループで「茶色の小びん」を最後まで演奏することができて、満足している状態であるだろう。しかし、前時までの子ども達の演奏は…

<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜通りに演奏することはできている。 ・自分の思いをもって演奏していない。 ・【主旋律】鍵盤ハーモニカ・リコーダーは、タンギングを意識していない。 ・【副旋律】リコーダー・鉄琴は、自分のパートを演奏することに集中している。 ・【和音】木琴は、マレットを木琴に押し付けるようにたたいている。 ・【低音】音が大きすぎて、全体の音がよく聴こえない。

ということが予想される。

そこで、前時にタブレットに録画しておいた自分の演奏を、グループごとに見られる状態にしておき、「こんな感じにしたいな」という自分の思いをもって演奏できていたか、『ひみつ』ができていたかについて振り返ることができるようにしておく。自分の演奏は、思いや意図が無く『ひみつ無し』の演奏になっていることに気付かせ、より良い表現にしようと工夫する姿を期待したい。

② グループで一人聴き役を立てる

「より良い表現にする」とは、前時の自分の演奏より演奏の仕方が上手になる、もっと違うさらに良い演奏の仕方があるのではないかと追及することである。自分が選んだ『ひみつ』を使って、演奏をさらに良くしようと思いや意図をもつこと、演奏をさらに良くしようと思いや意図をもって、『ひみつ』を使って演奏することである。

そこで、グループで自分が選んだ『ひみつ』を試す活動では、聴き役を立てる。聴き役は、それぞれ自分が試した『ひみつ』ができているかアドバイスさせる。客観的なアドバイスを受けることにより、思いや意図を強くもったり演奏の仕方をさらに良くしようしたり、試行錯誤しながら追求していけるようにする。

ウ「振り返り」について

- 視点を与えて振り返りを書かせる

「自分が試した『ひみつ』は何か」「どうして、その『ひみつ』を使ったのか」「『ひみつ』を使ったらどんな感じになったか」の2つの視点を与えて振り返りを行う。この視点を与えることにより、本時のねらいにせまるための手立ての有効性を評価する。又、子どもたち自身に、思いや意図をもって演奏の仕方を工夫することの良さについて実感させる。

(3) 本時の展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応	■ 評価規準 ○ 留意点
<p>導入</p> <p>1 教師の模範演奏を聴き比べ、違いを感じ取る。</p> <p>(3)</p>	<p>T1 前の時間は、「茶色の小びん」を上手に演奏することができましたね。実はね、先生方も「茶色の小びん」を練習したんだって。みんなに聴いてもらいたいんそうなんだけど、聞いてくれる？先生方、お願いします。</p> <p>C1 うん。どんな演奏かな？</p> <p>TT1 (♪『ひみつ無し』演奏を2段目までする♪)</p> <p>T2 どうだった？</p> <p>C2 まあまあ上手だった。</p> <p>C3 あまり上手ではない感じがしたなあ。</p> <p>T3 先生方の演奏だから上手だったよね！</p> <p>C4 えー？！もう一回聞きたいな。</p> <p>T4 では、二回目の演奏をお願いします。</p> <p>TT2 (♪『ひみつあり』演奏を2段目までする♪)</p> <p>C5 すごく上手！</p> <p>C6 2回目の方が、上手！</p> <p>T5 先生方、なぜ、2回目の方が上手に演奏できたのですか？</p> <p>TT3 『ひみつ』を使っているからです。</p> <p>C7 『ひみつ』って何だろう？</p>	<p>○ 前時の演奏は、良くできたことを確認する。</p> <p>○ 教師の『ひみつ無し』と『ひみつあり』の演奏は、演奏の仕方が変わっていることに気付かせる。</p>
<p>展開</p> <p>2 教師の『ひみつ無し』と『ひみつあり』の模範演奏</p>	<p style="text-align: center;">(学習課題)</p> <p style="text-align: center;">上手に演奏する『ひみつ』は何？</p> <p>T6 上手に演奏するとは、どういうことですか？</p> <p>C8 演奏の仕方がうまいってことかな？</p> <p>T7 自分が演奏しているパートに注目してよく見て聴きましょう。先生方お願いします。</p> <p>TT4 最初は、『ひみつ無し』の演奏です。</p> <p style="text-align: center;">(♪『ひみつ無し』演奏を2小節演奏する♪)</p> <p>T8 上手な演奏の仕方の『ひみつ』に気付けるかな。先生方お願いします。</p>	<p>○ 全体で上手という言葉は、演奏の仕方が上手という意味を抑える。</p>

<p>を聴き比べ、『ひみつ』に気付き、『ひみつ』を使って演奏するとどのような感じがするか考える。 (13)</p>	<p>す。 TT5 <u>次は、『ひみつあり』の演奏です。</u> (♪『ひみつあり』演奏を2小節演奏する♪) C9 分かった！鍵盤ハーモニカがタンギングをしています。 T9 タンギングをしたら、どんな感じがしましたか？ C10 歯切れのいい感じになりました。 T10 ○○先生、どうですか？ TT6 <u>はい。この曲の旋律は、歯切れのいい感じが分かるように、タンギングをしました。聴いているみんなにも伝わって嬉しい。</u> C11 鉄琴は、たたき方を弾んでいるようにしていました。 T11 弾むようにすると、どんな感じがしましたか？ C12 きれいな感じがしました。 T12 ○○先生、どうですか？ TT7 <u>はい。副旋律はきれいな音で演奏するのが合っていると思ったので、マレットを変えました。</u> C13 鉄琴が、マレットを変えていました。 T13 たたき方を弾ませたら、どんな感じがしましたか？ C14 弾んだ感じがしました。 T14 ○○先生、どうですか？ TT8 <u>はい。固い音よりも柔らかい音が、この曲には合っていると思ったので、マレットを変えて、柔らかい音にしようと思いました。</u> C15 木琴は、マレットを変えたいし、弾ませていました。鉄琴と同じだ。 T15 木琴はマレットを弾ませると、どんな感じがしましたか？ C16 弾んだ感じがしました。 T16 ○○先生、どうですか？ TT9 <u>はい。和音は、体が動き出しそうなリズムにしたかったので、マレットを弾むようにたたきました。すごいね。皆さんの耳は、体が動き出すような感じに聴こえたんだね。嬉しい。</u> C17 バスマスターの音を小さくしていました。 T17 音を調節していたということですね。音を小さく調節すると、どんな感じがしましたか？ C18 全体に合う感じがします。 T18 ○○先生、どうですか？ TT10 <u>はい。全体の音量がちょうどよくなるように音量を決めました。</u> T19 タンギングをする方は、演奏の仕方だから『ひみつ』だね。『ひみつ』を使って演奏すると、茶色の小びんに合った「こんな感じ」に聞こえるんだね。「こんな感じにしたい」と思ったら、こんな『ひみつ』を使えばいいんだね。</p>	<p>○ 子どもが『ひみつ』を見付けやすいように、1つのパートでの模範演奏を聴かせる。</p> <p>○ 子どもの気付きを「こんな感じにしたい」と『ひみつ』演奏の仕方に分けて板書する。</p> <p>○ 『ひみつ』が出てくるように、観点の違いがよく分かるように演奏してもらおう。</p> <p>○ 子どもの気付きを楽器ごとに板書し、子どもの言葉でまとめていく。</p>
---	--	--

	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>【こんな感じにしたい】 ←→ 【ひみつ】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">鍵盤ハーモニカ・・・(歯切れのいい感じ)</td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">タンギングをする</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">鉄琴・・・・・・・・・・(きれいな感じ)</td> <td style="padding: 5px;">マレットを変える</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">(はずんだ感じ)</td> <td style="padding: 5px;">はずませる</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">木琴・・・・・・・・・・(やわらかい感じ)</td> <td style="padding: 5px;">マレットを変える</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">(はずんだ感じ)</td> <td style="padding: 5px;">はずませる</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">バスマスター・・・・(全体に合う感じ)</td> <td style="padding: 5px;">音量を調節する</td> </tr> </table> </div>	鍵盤ハーモニカ・・・(歯切れのいい感じ)	タンギングをする	鉄琴・・・・・・・・・・(きれいな感じ)	マレットを変える	(はずんだ感じ)	はずませる	木琴・・・・・・・・・・(やわらかい感じ)	マレットを変える	(はずんだ感じ)	はずませる	バスマスター・・・・(全体に合う感じ)	音量を調節する	
鍵盤ハーモニカ・・・(歯切れのいい感じ)	タンギングをする													
鉄琴・・・・・・・・・・(きれいな感じ)	マレットを変える													
(はずんだ感じ)	はずませる													
木琴・・・・・・・・・・(やわらかい感じ)	マレットを変える													
(はずんだ感じ)	はずませる													
バスマスター・・・・(全体に合う感じ)	音量を調節する													
<p>3 パート、グループで『ひみつ』を試して、1グループが発表する。(22)</p>	<p>T20 みんなは、どんな感じにしたい? 『ひみつ』を選んで試してみましょう。</p> <p>T17 パートごとに『ひみつ』を試します。</p> <p>T18 前の時間の自分の演奏を確かめたい人は、タブレットで見てください。</p> <p>C19 鉄琴で、はずんで演奏していなかったから、もっとマレットを弾ませて演奏してみよう。</p> <p>C20 柔らかい音にしたいから、マレットを変えてみよう。</p> <p>T21 グループで演奏します。一人、聴き役です。聴き役は『ひみつ』ができていないか、どんな感じに聞こえたかアドバイスします。聴き役を交代して、何度も『ひみつ』を試します。</p> <p style="text-align: center;">(♪グループでの練習♪)</p> <p>C21 歯切れのいい感じにするには、もっとしっかりタンギングをしたほうがいいよ。</p> <p>T22 今のアドバイスを聞いて、どうしますか。</p> <p>C22 自分ではタンギングをしているつもりだったけど足りていないことが分かったので、もっとタンギングをしてみます。</p> <p>C23 マレットは、毛糸の方が柔らかい感じに聞こえるからいいね。鍵盤ハーモニカと合わせるために、もっとはずませた方がいいよ。</p> <p>C24 自分では分からなかったからありがとう。</p> <p>C25 全体に合う感じになるよう、バスマスターの音量をもう少し小さくしよう。</p> <p>T23 全体に合う音量ってどれくらいかな。</p> <p>C26 試してみよう。</p> <p>T24 マレットを変えたら、柔らかい感じになったね。それを続けてやってみよう。</p> <p style="text-align: center;">(練習後)</p> <p>T25 ○グループから、発表してもらいます。(2段目まで)</p> <p>T26 鍵盤ハーモニカはどんな感じがした?</p> <p>C27 元気のいい感じがしました。</p> <p>T27 どんな『ひみつ』を使ったの?</p> <p>C28 タンギングをします。</p>	<p>○ グループごとに、前時の自分の演奏がどうだったか自由に確かめることができるように、タブレットを再生できるようにしておく。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Cと判断される状況への働き掛け (『ひみつ』を選択できない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の同じパートの友達と一緒に相談させて『ひみつ』を選択させる。 ・(リコーダーの児童で『ひみつ』を選択できない) ・まとめの中の演奏の仕方であていられる楽器はどれかを考えさせる。 </div> <p>○ グループで、一人が聴き役となり、それぞれ『ひみつ』に合った演奏ができていたか、どんな感じに聞こえたかアドバイスさせる。</p> <p>○ グループを順番に回り、自分に合った『ひみつ』を価値付けたり、アドバイスした</p>												

	<p>C29 上手だった。</p> <p>T28 「こんな感じにしたい」と思ったら『ひみつ』を使うといいんだね。『ひみつ』を使うと「こんな感じ」に聞こえて上手に演奏できるんだね。</p>	<p>りする。</p> <p>○ 思いや意図をもって『ひみつ』使うことが大切であると実感させるために、1グループに発表してもらおう。</p>
<p>終末</p> <p>5 本時の演奏で変わったことを振り返りシートに書く。</p> <p>(4)</p>	<p>T29 振り返りをします。①自分が試した『ひみつ』は何ですか。②どうしてその『ひみつ』を使ったのですか。③『ひみつ』を使ったらどんな感じになりましたか。について書きましょう。</p> <p>C30 ①マレットを変えるという『ひみつ』を使いました。②やさしい感じの音にしたいなと思ったからです。③マレットを変えたら、とてもやさしい感じの音色になりました。</p> <p>C31 ①タンギングをしっかりとするという『ひみつ』を使いました。②元気のいい感じにしたかったからです。③友達にも元気のいい感じがすると言われてうれしかったです。</p>	<p>■ ①自分が選んだ『ひみつ』について ②自分の思いや意図をもっていることが書かれている。</p>

(4) 本時の評価

① 評価方法

振り返りの記述から評価する。

② 評価規準

A B基準+演奏がどうなったかということ（ワークシートの設問①②③）が記述されている。

B 自分が選んだ『ひみつ』と自分の思いや意図をもっていること（ワークシートの設問①②）が記述されている。

7 参考文献・資料

- ・平成29年度 音楽部のあゆみ
- ・平成21年度 音楽部のあゆみ
- ・平成16年度 音楽部のあゆみ